

はなし抄

ベルリンの壁が崩れたのも、きっかけはデモでした。1989年9月4日、旧東ドイツのライプチヒの教会の前に人々が集まり「旅行の自由をよこせ」「自由な選挙をやれ」という二つの要求を掲げてデモを行いました。もちろん、当時の東ドイツにデモをする自由はなく、市民はすぐ警察に追い返されました。それでも、その場に集まった人たちは「来週、もう一回や

早稲田大法学大学院教授 水島 朝穂さん

（8月30日、札幌市北区で開かれた講演会「平和と安全をどう創るか」より）



みずしま・あさほ 53年東京都生まれ。早稲田大大学院法学研究科単位取得退学。札幌学院大助教授、広島大助教授などを経て96年から現職。13年から全国憲法研究会代表。専攻は憲法学、法政策論、平和論。近著「ライブ講義徹底分析！集団的自衛権」（岩波書店）をはじめ著書多数。

安保法案は穴だらけ 市民の声で政治の地殻変動を

ろうと約束して別れました。すると次の週は5千人が集まった。さらに次の週は2万人になり、10月17日には10万人に膨れ上がったのです。

部の広場でデモを計画をしました。呼び掛けたのは俳優や作家、アーティストたちでした。それを警察が許可してしまつた。俳優や芸術家なら大丈夫だと思つたんでしょう。しかし、100万人が広場を

湧き起こりました。彼らは「私たちこそが人民だ」と叫びました。当時の東ドイツの正式名称はドイツ民主共和国。人民が主人公の国のはずです。しかし、この国は当時、一党独裁の政党に支配されていきました。市民は尾

ちこそがこの国の主人公だ」と声を上げたのです。東ドイツ政府は、市民の不満のガス抜きのために新たな旅行制度をつくりました。本当はいろんな条件や制限があったのに、政府の説明の手違いもあって、市民がすぐにも壁の向こうの西側に行けると勘違いし、一斉に（冷戦当時の東西ベルリンを隔てていた）壁を押し寄せた。そして、とうとう担当者が検問所を開けてしまった。ベルリンでデモが行われた5日後、11月9日の夜11時半、厳密に言うところの11時25分に、検問所が開いてしまったために、翌日、ベルリンの壁は崩壊したのです。

そうした動きは、戦後70年間なかったことです。過去の安保闘争は、どこかで労働組合や学生運動といった組織の動員があった。集団で動いて、声をそろえてシュプレヒコールを上げていた。でも、今は違う。一人一人の個人がそれぞれの思いを胸に集まって、一人一人がそれぞれのプラカードを作り、自分の言葉で考

えて、発言しています。安保法案は矛盾だらけ、穴だらけで、国会の議論でもかなりボロが出ています。多くの人がそれに気付いています。しかも憲法学者の9割が憲法違反だと言っている。もはや合憲か、違憲か、いろいろな意見があるというレベルの話では断じてない。これまでも、新たな法律を作ろうとするときに意見が対立することとはよくありますが、今回は内容と手続きの点からも、あり得ない法案だと思えます。法案は成立するかもしれないが、正当性がなければ使えない。そういう状況をつくり出すのは市民の力です。一人一人の市民が民主主義とは何かを考え、自らが主人公になって声を上げる。そうすれば、ベルリンの壁が崩れたのと同じように、日本でも政治の地殻変動が起きるはず

それを知った旧東ベルリンの市民が「私たちもやろう」と、11月4日の土曜日を中心に「壁の向こうに行かせろ」と大きな声

封ざれるような社会でした。それに対して、市民が「私

た）壁に押し寄せた。そして、とうとう担当者が検問所を開けてしまった。ベルリンでデモが行われた5日後、11月9日の夜11時半、厳密に言うところの11時25分に、検問所が開いてしまったために、翌日、ベルリンの壁は崩壊したのです。

そうした動きは、戦後70年間なかったことです。過去の安保闘争は、どこかで労働組合や学生運動といった組織の動員があった。集団で動いて、声をそろえてシュプレヒコールを上げていた。でも、今は違う。一人一人の個人がそれぞれの思いを胸に集まって、一人一人がそれぞれのプラカードを作り、自分の言葉で考

えて、発言しています。安保法案は矛盾だらけ、穴だらけで、国会の議論でもかなりボロが出ています。多くの人がそれに気付いています。しかも憲法学者の9割が憲法違反だと言っている。もはや合憲か、違憲か、いろいろな意見があるというレベルの話では断じてない。これまでも、新たな法律を作ろうとするときに意見が対立することとはよくありますが、今回は内容と手続きの点からも、あり得ない法案だと思えます。法案は成立するかもしれないが、正当性がなければ使えない。そういう状況をつくり出すのは市民の力です。一人一人の市民が民主主義とは何かを考え、自らが主人公になって声を上げる。そうすれば、ベルリンの壁が崩れたのと同じように、日本でも政治の地殻変動が起きるはず

えて、発言しています。安保法案は矛盾だらけ、穴だらけで、国会の議論でもかなりボロが出ています。多くの人がそれに気付いています。しかも憲法学者の9割が憲法違反だと言っている。もはや合憲か、違憲か、いろいろな意見があるというレベルの話では断じてない。これまでも、新たな法律を作ろうとするときに意見が対立することとはよくありますが、今回は内容と手続きの点からも、あり得ない法案だと思えます。法案は成立するかもしれないが、正当性がなければ使えない。そういう状況をつくり出すのは市民の力です。一人一人の市民が民主主義とは何かを考え、自らが主人公になって声を上げる。そうすれば、ベルリンの壁が崩れたのと同じように、日本でも政治の地殻変動が起きるはず

（構成・関口裕士）